

和歌山県庁文化国際課メールマガジン★NO.15★



メルマガ読者の皆様、こんにちは。あと数日で2014年が終わり、新年を迎えます。この一年を振り返っておられる方も多いと思いますが、皆様にとって2014年はどんな年だったでしょうか。今回は、「異文化紹介」のコーナーで“餃子”を取り上げています。中華の定番で馴染みの深い料理ですが、“中国では餃子は主食”など“目から鱗”の情報が得られること間違いナシです。また、初めての試みとして本の紹介を掲載しています。それでは、メルマガNo.15をお楽しみください！

● 文化国際課 だより ●

△▽△▽△▽△ 和歌山県・山東省友好提携30周年記念事業 ▽△▽△▽△▽

和歌山県と中国山東省は、今年で友好提携締結30周年を迎えました。そのことを記念し、和歌山県議会坂本議長を団長とする山東省友好提携30周年記念訪問団が、10月21日から23日まで中国山東省を訪問し、山東省人民代表大会（和歌山県でいう和歌山県議会）への表敬や和歌山コーナーおよび和歌山県観光写真展・回顧展の開幕式への出席、環境セミナーの開催などを行いました。今回は、この中から2つご紹介します。

【和歌山コーナーの開設】

山東師範大学内に「和歌山コーナー」を設置しました。同コーナーでは利用者に対し、和歌山県への関心を高めていただくとともに、和歌山県への理解を深めていただくことを目的に、当県に関連する書類などを展示しています。

開幕式には山東省政府関係者、遠山在青島総領事、大学関係者など約70名が出席し、盛大に開催されました。また、当日は大学内に和歌山県の観光地を紹介するコーナーも設けられました。



観光地紹介コーナー



開幕式



和歌山コーナー

【和歌山県観光写真展・回顧展】

山東省博物館内では和歌山県観光写真展・回顧展が開催されました。開幕式には山東省政府関係者、遠山在青島総領事など約100名が出席し、盛大に開催されました。



観光写真展・回顧展の様子



開幕式

▽△▽写真展「巡礼：フランチェスコのサンティアゴ巡礼の道」 県内開催 ▽△▽

10月31日(金)、イオンモール和歌山で写真展「巡礼：フランチェスコのサンティアゴ巡礼の道」のオープニングイベントが行われ、主催者である和歌山県知事、スペインからは、ガリシア州政府観光プロモーション局長をはじめ、駐日スペイン大使夫妻、セルバンテス文化センター館長夫妻など130名を超える来賓の方々が出席されました。開催にあたり、今年5月にサンティアゴ・デ・コンポステーラの大聖堂で平和の祈りを捧げた、青岸渡寺の高木副住職や修験者の方々による儀式が行われ、来賓スピーチのあとにはスペイン音楽バンド「La Tuna」の演奏でガリシアにちなんだ曲の披露があり、式典は両県州の文化に触れる機会となりました。



駐日スペイン大使挨拶



「La Tuna」による演奏

2014年は、聖人フランチェスコ（フランシスコ会創設者）がイタリア・アッシジから和歌山県と姉妹道提携をしているスペイン・ガリシア州のサンティアゴ・デ・コンポステーラまでの巡礼道を歩いてから800周年。今回はこれを記念して、写真家マヌエル・バルカルセル氏、音楽家アレクサンドロ・ゴンザレス氏（ともにガリシア州出身）がイタリア、フランス、スペイン北部ガリシア



会場の様子

州まで、フランчесコと同じ道を辿り、旅をして完成させた作品 50 点をアレクサンドロ氏の音楽とともに鑑賞できる形で展示されました。会場へ来られた方々は、興味深気に作品に見入っていました。

写真展はイオンモール和歌山では 11 月 7 日(金)まで、その後、熊野本宮館・和歌山世界遺産センターに会場を移し、11 月 17 日(月)～12 月 15 日(月)まで開催され、好評を得ました。



● 異文化紹介(中国編) ●



水餃子を想う

春節(旧正月)が近付くとともに、故郷の中国を想えば、伝統料理の水餃子(日本で言う茹で餃子)が恋しくなります。日本に来て初めての中華料理屋で、メニューに書いてある「餃子」の文字の横に焼餃子の写真が載っていることにカルチャーショックを受けた事は、いまだに記憶に新しいです。

中国でも同様に「餃子」と言いますが、中国では焼餃子ではなく水餃子のことを指します。水餃子は約 2000 年にも及ぶ歴史を持つと言われる中国伝統料理で、その起源について様々な説があります。その中では、医聖と呼ばれる中国東漢時代(西暦 25 年～220 年)の漢方医者張仲景氏が耳の霜焼けの予防薬として、羊の肉や唐辛子、胡椒、漢方薬などを小麦粉で作った皮に包んで、耳の形に作ったものが最初の餃子であるという説が有力視されています。餃子の名前も時代の変遷と共に、最初の「嬌耳」から「扁食」、「角子」、「交子」などを経て今日の「餃子」になっています。

さて、日本の焼餃子はラーメンやチャーハンと一緒に食べるおかずとされ、キャベツやタマネギ、豚肉で作られた餡が基本で、パリッとした食感を追求するために皮の薄さに拘りがあります。これに対して、中国の水餃子は主食で、皮の食感よりは、おかずに当たる餡の種類のバリエーションの多さが求められます。中国で餃子専門店に行けば、豚肉餡、羊肉餡、牛肉餡、三鮮餡(豚肉、エビ、アマゴ)、魚肉餡、エビ餡、ニラ餡、白菜餡、セロリ餡、しいたけ餡などなど、驚くほど多くの種類があります。ちなみに、水餃子の餡には基本的にニンニクは入っていません。ニンニクがタレに入れられることは多いですが、家で水餃子を食べながらニンニクを丸ごとかじる人もいます。

また、この水餃子は中国人にとってめでたい食べ物でもあります。中国、主に北京を中心とする北部では、季節の行事や祝い事で水餃子を食べる風習があります。特に春節になると、家族が集まってわいわい雑談しながら年越しの餃子をつくるのは各家庭の楽しみです。縁起の良い数のコインやなつめなどを餡に入れて、食べる時それが当たると、来年一年は願いが叶うというので、春節の水餃子は中国人にとって特別な意義を持っているとも言えます。

餃子文化が盛んな国として、水餃子以外に、焼餃子、蒸し餃子、揚げ餃子などもありま



☆○○○○○ 文化国際課オススメ！ 本のご紹介 ○○○○○☆

和歌山県とブルネイは相互に青少年交流を行っています。

今回は、ブルネイの社会や文化についてわかりやすく学べ、国際的な感覚が養える本を紹介します！この本を読んだ人たちからは「勇気や元気を貰えた」という声が多く聞かれ、日本経済新聞「目利きが選ぶ今週の3冊」にも推薦された今話題沸騰中の本です。かつて駐ブルネイ日本国大使であった仁坂吉伸現和歌山県知事もバタフライ・アンバサダーとして登場します。日本の外交官が「世界一の金持ち王国」でなしとげた奇跡と感動のストーリー。

『ブルネイでバドミントンばかりしていたら、なぜか王様と知り合いになった。』

著者 大河内 博

定価 1,600円+税

発行 集英社インターナショナル（発売：集英社）

あらすじ

経産省の職員だった筆者は、2005年春、日本大使館の二等書記官としてブルネイに赴任する。世界一裕福な国ブルネイと日本の架け橋なろうと意気込んでいたが、そこに待っていたのはこの国独特の「社会の壁」であった。「こんなことなら日本にいればよかった」と思っていたあるとき、遭遇したのはブルネイのセレブが迫力あるバドミンントンの試合をしているシーンであった。ブルネイでは、一般庶民からお役人、さらには王族までがバドミンントンをプレイする国だったのだ。筆者はある決意をする。「こうなったらブルネイ中の人たちととことんバドミンントンをしてみせる！それがボクなりの『外交活動』だ」そんな単純な思いつきから始まったバドミンントン武者修行を通して、「誰も知らないブルネイ」が姿を現しはじめる…。

序章 七つ星ホテルの「奇跡」

第一章 新米外交官、大いに後悔する

第二章 ブルネイ踏んだり蹴ったり

第三章 バタフライ・アンバサダー

第四章 いざ、武者修行へ！

第五章 王様と村人たち

第六章 練習が先か、家族が先か

第七章 元王妃との「再会」

第八章 前歯がない！

第九章 水上のバドミンントン

第十章 オスマン殿下との出会い

第十一章 「オグシオ」をブルネイへ！

第十二章 突然の別れ

第十三章 そして王宮へ

第十四章 さよなら、ブルネイ

終章 このままでは終われない



★クリスマス・新年の表現★

今回は、この時期によく目にするクリスマスや新年に関する英語表現の中で、実は誤った使われ方をしているものを2つ紹介したいと思います。

◆ **X'mas** : 「クリスマス」の表記としてよく見かけますが、実際はアポストロフィ「'」を入れずに“Xmas”とするのが正しいといわれています。“Xmas”の“X”は、もともとはアルファベット“X”ではなく、ギリシャ語でキリストを意味する“Χριστος (クリストゥス)”の頭文字“X”でした。この1文字だけで「キリスト」を表すため、“Christmas”の“Christ”の代わりに用いられています。こうした背景から、英単語を短縮するときに付けるアポストロフィは、英単語の短縮形ではない“X”の後には必要ないのです。

◆ **A Happy New Year** : 「明けましておめでとう」の意味でよく年賀状のタイトルなどに使われていますが、このような場面では“A”をつけずに“Happy New Year”とするのが正しい表現です。“a happy new year”には、文字どおり「幸せな新年」という意味しかないのですが、“happy new year”とすると「おめでとう」の意味を含めた新年のあいさつになるのです。“happy birthday”や“good morning”といったあいさつに“a”をつけないのと同じことですね。ちなみに、“happy new year”を単独のあいさつではなく、文の一部として使うときは、“I wish you a happy new year. (よいお年をお迎えください)”のように“a”をつけます。

今まで間違っていた方もいるかもしれませんが、これから気を付けるようにしましょう！



今回のメルマガはいかがでしたか？

来年2015年も引き続き尽力してまいりますので、ご愛読よろしくお願い致します。

それでは皆様、よいお年をお迎えください。

次号は3月配信の予定です。どうぞお楽しみに。

文化国際課メールマガジンも、創刊からまもなく3周年を迎えます。今後も和歌山県の国際交流について、様々な情報を発信していきます。より多くの皆さまに情報をお届けすべく、国際交流に興味をお持ちのお友達がいらしたら、ぜひご紹介いただきたいと思います。

和歌山県文化国際課ホームページから読者登録ができます。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/kokusaikouryu/mailmagazine/mailmagazine.html>

クイズの回答

Q1. ③イギリス

イギリスのスコットランド地方の民謡で、原曲名は“Auld Lang Syne（オールド・ラング・サイン）”で、“遠い昔”という意味です。現在NHKで放映中のドラマ“マッサン”にも、スコットランド出身のヒロインが良く口ずさむ歌として何度も登場しています。

Q2. ①正月

イギリスやその他英語圏の国々では、大晦日のカウントダウンの後、新年を迎えた際に歌われます。体の前でクロスした手を繋いで輪になり、合唱しながら新たな年を祝います。

日本人にすれば、“お正月に蛍の光を歌う”とはイメージしづらいですが、原曲の歌詞は日本語のものと異なります。他の国々では歌われているのか？なども含め、ぜひ調べてみてください。